

## 5. 採種林の施業法の改善

- (1) スギ採種林の造成
- (2) アカエゾマツ採種林の造成

### (1) スギ採種林の造成に関する試験

#### 1. 試験担当者

本場造林部造林科長 柳沢聰雄 ほか  
＊ 種子研究室長 浅川澄彦 ほか  
北海道支場育種研究室長 敏島惇一郎 ほか

#### 2. 試験目的

採種林の結実量を増大し、タネの品質を向上するための施業方法を確立する。

#### 3. 昭和45年度の経過とえられた結果

##### ○スギ採種林の造成

計画にしたがつて、結実促進処理、施肥を実施し、第1回の結実調査を行なつた。えられた結果は、次のとおりである。

(1) 各区の調査木の結実はきわめて少ないが、無処理区に比較して弱度疏開区で結実している個体が多いといえそうである。

##### (2) 結実促進処理木の結実状況

環状剥皮木：無処理のものにくらべれば、結実量は多いが、ジベレリン処理にくらべるとはるかに効果が少ない、処理区間では弱度疏開区で効果がより少ないと見えよう。ジベレリン処理木：1ブロックの強度。弱度疏開区の一部に処理したが、溶液、ラノリンの何れによる施用もいちじるしい効果を示した。疏開程度のちがいはほとんどないといえそうであり、単木の平均種子生産量は、およそ900粒であった。

すべてについて、施肥・無施肥区間にちがいがみとめられなかつた。

##### ○アカエゾマツ採種林の造成

着花状況の調査からは、各試験区とも差はみとめられまい。

#### 4. 昭和46年度の試験計画

##### ○スギ採種林

5月中旬 春施肥、環状剥皮  
6月下旬～7月上旬 ジベレリン処理  
10月中旬 結実調査(132本)、秋施肥  
10月下旬～3月下旬 球果の測定、タネの調製、品質調査

##### ○アカエゾマツ採種林

着花状況の調査